

世界遺産アカデミー認定講師 File No.13

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓蒙活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第13回は、世界遺産検定1級合格までの苦難を何度となく乗り越えた後、世界遺産検定マイスターを取得し、現在は学校機関や自治体などでガイダンスをご担当されている、世界遺産アカデミー準会員の根本潤子(ねもとじゅんこ)さんです。

——家族全員で挑んだ世界遺産検定

小学生の頃からピラミッドやモヘンジョ・ダロ遺跡といった古代文明が好きで、学校では関連図書をよく読んでいました。歴史や古代の謎への関心がより高まった高校時代には、「ラストコンサート」というモン・サン・ミッシェルを舞台にした日伊合作映画に感動し、とても惹きつけられました。世界遺産だと知ったのは大人になってからのことでした。かつて動いていたソニーの海外事業本部は、社内で唯一、世界中の輸入業務を取り扱う部署でした。常に国際情報が行き交う中で、小さい頃から蓄積してきたものが少しずつ繋ぎ合ったり、自社提供番組「THE 世界遺産」で決定的に、あの憧れの優美な建築物を知ったのです。

母となり、PTAや地元地域の民生委員などを10年以上務めて、これからは自分自身のために時間を費やすのも良いかもしれないと思い、ふと浮かんだのが世界遺産でした。第1回世界遺産検定が開催されると知って書店に向かい、講談社刊行の分厚い書籍を手に取りました。残念なことに、検定申込は既に締め切られていました。その書籍を買って帰り、第2回検定から受験しました。1-Day ガイドにも参加してみると、当時は竹橋開催に限定されていたこと

もあり、カートを引きずって上京された方々やご年配の方も多くいらっしゃって、世界遺産は永遠の学びであって、社会人となってからの勉強の大切さを実感しました。

ところが、勉強が進むにつれ、躓きを感じるようになったのです。世界遺産の物件がなかなか覚えられず、登録基準や登録年、危機遺産となった背景などに混乱しました。最初は楽しかったはずなのに、苦行のような辛さが続きました。ブロンズに合格した時は、その達成感に思わず感涙してしまっただけです。1級にいたっては本当に難しく、合格するまでに5回もの試験を経験しました。検定当日が近づくと次第に機嫌が悪くなり、家事も遅れ気味に。寛容な夫も見るに見かね、最初は様子を見ていただけの家族が、次第に一緒になって協力してくれるようになりました。息子が世界遺産のトランプを買ってきて、それに印刷された写真から物件名を言い当てるテストをしてくれたり、「THE 世界遺産」の録画映像を観ていると、物件名が画面に流れる前に止めて「はい、どこ?」と出題されたり。ワインソムリエの息子がドイツワイン検定の受験を控えていた時には、お互いの知識を確認し合いました。本当に家族全員大騒動の毎日でした。

世界遺産の中にも得意不得意があり、私ははヨー



「今いちばん訪れてみたい場所はスペイン・ポルトガル」と笑顔の根本さん

ロッパが苦手なようです。ただ、フランスの世界遺産だけは想い出が詰まっていますし、フランス語を習ってからも、話は別ですが(笑)。心が吸い寄せられるのはイスラム建築や幾何学模様のモザイクタイルが美しいアフリカ諸国や中東、イスラム教国です。モロッコのジャマ・エル・フナ広場を訪れた時は

鳥肌が立つほど感動しましたし、トルコのイスタンブールでは、人々の外見の特徴から遺伝子に組み込まれた多様性文化を感じることが出来ます。荘厳なアヤソフィアのみならずは言うまでもありません。2010年の検定では、当時愛知県で開催されていたCOP10が狙い目だろうと、「カジラン国立公園」やインドサイなどの絶滅危惧種で攻めようという戦略を立てました。実際の検定にはあまり出題されませんでした。テレビ番組で絶滅危惧種の映像を観ると、すんなりと物件名や登録基準などが浮かび上がってくるので、そんな自分を面白くも感じています。

1級合格後にマイスター試験を受検しようかどうか迷いましたが、家族の応援もあり、WHA 研究員の宮澤さんからも、1級とマイスターは全く異なり、自分の意見をきちんと明確に示すことが大事で、私はマイスター向けのタイプだとアドバイスいただき、目指すことを決意しました。その通りだったのか、マイスターはなんと1回で合格できました。その後、認定講師研修参加への抽選にも受かり、認定講師となってから、ガイダンスのお声をかけていただくようになり、50歳を過ぎてから、このような生き方に出会えるとは思っていませんでした。本当に感謝しています。

——考え方の振り幅を広げてくれた世界遺産

きっかけが何にせよ、私の年齢でひとつのことに集中して頑張れることが新鮮で、世界遺産そのものが私自身の考え方の振り幅を広げてくれました。現在、勤めている区役所は、横浜市内という土地柄、国際色豊かな人々が暮らしています。様々な民族があって、多種多様な文化で溢れていますが、やっぱり世界はひとつ。すべてが繋がっていると感じられます。このようなことは、1級認定者の頃にはなかった感覚で、マイスターに合格してから認識できるようになったことです。エトナ山の噴火も、シリアの内戦も、異国で生じていることで、俯瞰的に物事を捉えるようになりました。世界遺産は誰もが関心を持てやすいトピックですから、コミュニケーション・ツールとしても良い面があります。通り遍のストーリーだけでなく、ペルーの「ウアスカラン国立公園」には「ブライモンディ」という100年に1度しか咲かない珍しい花があるなど、世界遺産に付随した蘊蓄も楽しみ方のひとつです。一方で、世界遺産にはそぐわないようなお土産屋さんや観光開発に気づくこともありますが、地域の方々はその生活の糧を得ている

ケースもあり、共存するのは色々な課題があると思います。「武家の古都・鎌倉」が世界遺産にならなかったのは残念でしたが、私の地元・金沢区にある金沢山(きんたくさん) 称名寺の周辺道路は、それでなくともインフラ整備が遅れていて、これ以上観光客が多く集まったら対処できないと苦言を呈していました。一過性ではなく長期的に世界遺産を捉えて、礼節をもって楽しむことが、本当の意味での観光ではないでしょうか。

今後は、小学生を対象にした外国文化に触れる総合教育のひとつとして、世界遺産の素晴らしさを伝える活動をしていきたいと思っています。横浜市内の小学校には「国際理解教室」というユニークな授業があり、市内在住の多国籍の先生が母国語での挨拶や歌、食文化など、子どもたちが興味をもちやすい内容を教えています。小学生ぐらいの年齢から他の宗教や多文化に触れていくと、世界を柔軟に受け入れられる大人に成長できるのではないのでしょうか。横浜市内の小学校にはペルー人やポルトガル人など多種多様な子どもたちが通っています。ペルー時間で毎朝8時30分に登校しない子どもたちもいます(苦笑)。異文化への寛容さが大切だと思います。